

2026 年度 兵庫県社会福祉士会 役員立候補者による所信表明演説
(2026 年 3 月 21 日開催 第 33 回総会)

理事立候補

藤井 真人 氏

この度、理事に立候補いたしました藤井真人です。私はこれまで宝塚市社会福祉協議会の現場で、在宅介護支援センターなどの相談支援や地域支援、災害福祉支援に携わってまいりました。

その中で大切にしてきたのは、1 人 1 人の暮らしに寄り添うこと、地域の中で支え合える関係を育てることです。現場で出会ってきたのは、制度だけでは耐え切れない生活で、そしてそれでも何とかしようとしていくという、人と人との繋がりからでした。

そうしたこれまでの経験から、社会福祉士の専門性や役割が大切であるが、まだ社会に十分浸透していない、伝わっていないという思いも抱いてきました。だからこそ、私は実践している私達自身がその価値を言葉にし、社会に示していく必要があると考えております。

私自身、この兵庫県社会福祉士会で、これまで多くの学びと支えをいただけてきました。兵庫県社会福祉士会は、仲間と出会い、学び合い、支え合い、そして私達の価値を広げていく大事な場だと考えています。今後は私達のこれまでの経験をより多く会に還元し、会員の皆様 1 人 1 人が繋がっていったよかった、そう思えるような組織作りに関わりたいと考えております。

理事としましては、現場の声を大切にしながら、現場と会をつないでいく。そして皆様が安心して学び、成長を続けられるような環境作りに取り組んでまいりたいと考えております。

皆様とともに歩みながら、社会福祉士会の専門性、そして価値を少しずつでも確かなものにしていきたい、そういうような思いで今回立候補いたしました。

岡本 和久 氏

30 年余り社会福祉士会で活動してまいりました。皆さんとともに社会福祉士会とともに私の福祉人生を歩んできたかなというふうに思っております。

現在は神戸市の児童相談所で担当課長をしております。また社会福祉士会の方では地域移行支援委員会や阪神ブロックを中心に活動しています。私が理事として立候補した理由は、この会の財政の事情もそうですが、非常にいろんな状況を踏まえて厳しくなってきています。持続可能な社会福祉士会にしていく必要があると思っております。そして、支えてくださる会員の方を大事にする会あってほしいと思っております。

一つ目は研修に参加しやすい環境を作っていく。参加費用を見直して、参加しやすくないだろうかと考えています。

二つ目は委員会活動に参加しやすくしたい。予算的に非常に厳しい状況ですが、委員会活動の予算を十分に取れるようにし、また皆さんの活動しやすいようにしていきたいと思っています。

三つ目はブロック活動の活性化ということですが、初任の方や新しい会員の方の、学びの場や交流の場を増やしていくということが大事ではないかと思っています。

最後に四つ目ですけども、新しい入会の方へのアプローチを含め、皆さんの参加の場を増やすということが大事だと思っています。具体的には、基礎研修修了生の OB 会や、若手会員やシニア世代の会員が、会の中で活躍できる場というものを作ることが退会防止に繋がるということ。そして、新入会員をいかに増やしていくかということについてはやはり何らかのアプローチは必要だと思いますので、今も様々取り組んでいます。新入会員に寄り添うためのメンター制や、ブロック活動での参加の機会を増やすような入会促進の事業をブロックの皆さんとやっていくことが大事ではないかと思っています。

最終的にそういったことを踏まえて、会員が活性化し、この会に入っている皆さんが学べるということを一理事としてもやっていきたいと思っています。

最後に第 3 期計画がまだできておりません。具体的な行動計画に落として、皆さんと取り組んでいきたいと思っています。

寺田 順一 氏

私は障害者支援施設で 30 年以上利用者の方々の支援に携わってまいりました。入職時より自分に何ができるのだろうかとか問いかけ、ともに歩む、ということ自分の根幹とし、常に寄り添う姿勢を心がけながら、利用者の方々ご家族を初め地域やその他の関係機関等の方々との関係を大切に、またその方々のおかげで自分自身も成長させていただき今日があります。感謝しかありません。その中で私にとって人権の尊重ってというのは大きな課題でございます。さらに言えばそれを続けていくことこそが課題となっております。ここ何年かの間に権利擁護に関する取り組みが義務化されるようになり、特に意思決定支援におきましては全ての利用者の方において、最善の利益の実現に取り組んでいます。

また、マクロレベルという社会全体においても、地域共生社会の実現に向けて、調整役調整等をサポートしていくことが求められていると感じております。これらの課題に向かってまだまだたくさんの方からご意見をいただき、様々な視点、角度から物事を捉えるスキルを磨き、経験を重ねていきたいと思っています。

また 4 年間という期間でしたが、兵庫県社会福祉士会の理事として携わるなかで、

兵庫県社会福祉士会が今日まで積み上げてこられた信用と実績を実感しております。

これからも職能団体の役割を担っていく上で、信用と実績をさらに一つ積み上げていくことに努め、会員の皆様をはじめ、ニーズを求められている方々に私自身少しでも貢献できるようこれからご縁を大切にしながら、誠心誠意務めていきたいと思っております。

榎本 昌起 氏

私は、委員会活動はばあとなあ兵庫と高齢者障害者虐待対応委員会で運営委員等を務めています。社会福祉士として権利擁護という専門性を大事にして活動しています。社会福祉士会の理事として、しっかりと研鑽をしながらも、地域に、そして職種との連携というものを大切にしていきたいと思っております。本日の総会では、様々なご意見をいただきました。私は次期で4期目になりますが、まだまだ取り組まないといけないことがあると考えております。皆様のお力を借りながら、頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします

福井 良江 氏

神戸市教育委員会に所属し、スクールソーシャルワーカーをしています。理事は2期4年を終えまして、この度、3期目の立候補をさせていただきました。

委員会活動は、こども家庭支援委員会に参加しておりまして、副委員長をさせていただいております。理事としては、生涯研修センター担当を担っておりました。

会そのものの運営面を改めて振り返ってみますと、やはりまだまだ多くの課題があり、私達理事が一丸となることはもちろんですが、会員の皆様と一緒に活動を作り上げていくことが必然だと感じています。そのためには、会員の皆様に、この職能団体の存在意義についてもっと感じていただいて、入会率を上げていきたいですし、社会からも必要と専門職団体として、その専門性をさらに必要としていただきたいと思っています。

私個人としましては、児童家庭分野で活動されている方々の交流がもっと広まって、そのネットワークも広まって、本当に児童の分方もこの会にたくさん参加していただきたいと思っています。

そのような会にしていくために自身の専門性を高めるとともに、未来にわたっても会員の皆様の活動が広がっていく会へととなりますよう、これからも頑張っていきたいと思います。

小椋 智子 氏

次期で2期目となります。初めに、理事としての基本姿勢についてお伝えしたいと思います。私は理事の役割で最も大切なことは、会員の皆様1人1人の活動を支えることであると考えています。

社会福祉士会は会員が安心して繋がり、学び合い、誇りを持って活動できる組織であるべきだと考えています。その実現に向けて、組織運営の透明性と信頼性を高め、納得感のある運営を進めるとともに、会員同士の繋がりや促進と社会への発信の強化に取り組んでまいります。

1期目を振り返りますと、課題も多く、まだ道半ばであるとは感じています。一方で、会員の皆様の実践の中に、この会の力と可能性を強く感じております。私自身は、生活支援コーディネーターとして、地域の現場で意思決定支援に向き合う中、意思表示がされていても、それが決定として暮らしの中に位置づけられない現実と日々向き合っています。障害のある人や高齢者、病気を持つ人が、みんなが自分の望む暮らしを実現できる社会へと変えていきたいと強く思っています。

だからこそ、現場で努力されている会員の皆様と力を合わせ、ともに福祉を作っていきたいと考えています。2期目にあたり、これまでの経験を生かし、会員の皆様の活動をしっかりと支えてまいります。そして、会員の皆様が社会福祉士として誇りを持てる組織であり続けられるよう努めてまいります。

社会福祉実践は1人でできるものではありません。ともに語り、ともに悩み、ともに決めていく営みであり、対話と協働の中で作られていくものだと考えています。だからこそ、皆様とともにこの会を、そして節福祉を作っていきたいと思っています。

ともに歩んでいきましょう。

段 真奈美 氏

この度、理事に立候補いたしました段愛美です。私はこれまで4年間理事として、そして今季は副会長として、会の運営と組織力の向上に取り組んでまいりました。

課題を見つけて改善を提案して仕組みを作る。地道なことの積み重ねではありますが、その一つ一つに、この会をもっと良くしたいとそういう思いを込めてやってまいりました。志の高い仲間がいて、現場で頑張っている社会福祉士がたくさんいます。それなのに、その力を十分に生かしきれていない。その現状がもったいないと感じてきました。今、私達は大きな転換点に立っております。組織力の向上につきましては今回の議案集にも書かせていただいておりますけれども、運営は正直楽ではございません。予算の制約もありますし、会員数の伸び悩みもございます。でも、こんなときだからこそ変わらないといけないと思っています。

会員は例年100名ぐらいの増加をしておりますが、さらにプラス100名1人の会員

が1人誘って、何とか会員を増やしていきたいと思っています。まだ会に入っていない社会福祉士に、この会に入る価値があると伝えていくこと、仲間を増やして、支え合って学びあえる強い組織を作っていくこと、そして委員会活動も見直しをして、会員1人1人がここに入ってよかったと思える会にしていくこと、簡単ではないことはよくわかっております。でも、ここまで関わってきたからこそ見える課題もあります。

この現状を守るのではなく、この会を一步でも前に進めるために立候補いたしました。未来のこの社会福祉士会をもっと強く、頼れる組織にしていきたい。そのために全力で尽くしてまいる覚悟です。1人ではできないと思います。ぜひ皆さんのお力を貸していただきたいと思います。一緒にこの街の未来を作っていけたらと思っています。

永田 三輪 氏

1期目を通じて、社会福祉士会の活動の流れや役割について理解が少し深まってきたかなというところです。その中で多くの学びを得、基礎研修のスタッフをすることで皆さんと顔が見える関係ができてきたかなというふうに思っています。私のできる範囲でできることに取り組み、会員の皆さんの声を会の運営に繋げていきたいと思っています。

これまでこの1期目で、生涯研修センターならびに組織力向上の担当理事として、いろいろな会議の運営や、基礎研修やその他研修の運営方法など、より良い形を模索しながら改革の検討を進めてきました。他にも調査研究委員会の委員など委員会活動を通じて、等身大で頑張って参りたいと思いますのでよろしくお願いします。

森保 純子 氏

私は東播ブロックの明石市で独立型社会福祉士として活動しています。今回初めての立候補です。

私は職能団体である兵庫県社会福祉士会は、会員1人1人が日々の実践を通して得た気づきや経験を持ち寄って、互いに学び合いながら専門性を高めていく場であるべきだと考えています。社会福祉士は日々の実践と、そこから学び続けることの両輪によって成り立つ専門職です。だからこそ、社会福祉士会は会員同士が繋がることで、実践に生かせる知恵を得て、現場の取り組みを振り返り、次の支援へと繋げていく。そのような自己研鑽の積み重ねを支える場でなければなりません。その一つ一つの積み重ねこそがソーシャルワークの質を高め、支援を通じて社会へと還元されていくからです。

今、日本社会は物価が物価の上昇による生活不安や少子高齢化が進み、これから先の社会保障の課題や災害への備えや避難の問題など、複雑で困難な課題に直面してい

ます。加えて世界情勢の不安定さも私達の暮らしに影響を及ぼしています。

私達はそうした状況の中で日々地域の人々の暮らしを支えています。現場の重さと責任の大きさを、私自身も強く実感をしています。だからこそ、社会福祉士が課題を1人で抱え込むのではなく、悩みや工夫を共有し、それを次の支援へ繋げていくことがこれからますます重要になります。わたしたちは阪神淡路大震災を経験しました。そしてそこから復興の歩み、歩みを重ねてきています。そんな兵庫だからこそ、自然災害による広域的な困難にも、それから人生における個々の困難にも向き合い、地域に根ざしたソーシャルワークの力を現場の実践から着実に積み上げ、次の世代へと繋いでいく責任があると思います。そのためには、社会福祉士1人1人の経験や知恵が尊重され、安心して課題や困難を語り合い、協働できる場が必要不可欠です。

私は兵庫県社会福祉士会を信頼と皆さんの協働に支えられた。より開かれた職能団体へと発展させたいと思っています。また継続できる経営状態に変えていくということも大切なことです。そして会員の皆様のよりどころよりどころであると同時に、県民の皆様からも信頼を得られる団体であるよう、その責任を果たしていきたいと思っています。

その実現に責任を持って取り組むためこの度立候補いたしました。皆様のご理解とご支援を心よりお願いします。皆さんと一緒に頑張っていきたいと思っています。

近藤 健太 氏

私は4期目になります。昨年は阪神ブロックの地区ブロック選出理事として参加させていただきました。

神戸市の福祉事務所で、生活困窮者支援の窓口の面接の担当をしております。社会福祉士会の活動では、昨年度は近畿ブロック研究研修大会の実行委員として洲本市、淡路ブロックのご協力をいただきながら、運営に携わりました。また日本社会福祉士会の生活困窮者支援委員会の委員として携わらせていただいています。

1993年に本会が発足して、30年以上経ちました。予算も1億円を超える団体になっております。社会的責任も多く、委託事業に携わる委員会活動があります。その他の事業として、収益を確保しながら専門性を担保する研修や学習会の実施が求められます。いかに収益を確保しながら、整合性、合理性を持って、負担を軽減しながら積極的に参加していけるかが、この会の存続にかかっているかと思っています。

あと兵庫県社会福祉士会では、基礎研修の修了者が、基礎研修のファシリテーターとして参加していただいたり、社会福祉士養成校とつながって、後進の育成のために社会福祉士会から講師派遣を行えるという、兵庫県ならではの強さがあると思っています。今後、1900人、2000人と会員が増えていく中で、社会的責任を果たすべく、国家資格の職能団体として、集い、語らい、また学びあえる会であるように、また理

事として参画させていただけたらと思います。

監事立候補

塩尻 点 氏

西はりまブロックと兵庫県社会福祉士会が大好きな塩尻と申します。この現代の世の中において、何が起こるかわからない状況にあります。その中で社会福祉士は非常に大切な役割を求められていると思います。社会福祉士が活躍できるような環境を整えていきたいと考えております。

本日の総会審議での皆さんからの質問で、皆さんの会に対する思い伺い、非常に元気をいただきました。兵庫県社会福祉士会をより発展させていくために、会長を含め理事全員が検討されています。また会員の皆さんからも、一緒に協力してやっという声いただき、会としての意思決定ができたと思います。それに基づいて、新しい組織システムを作っていく、皆さんが活躍できるような会を作っていくと思います。

土谷 長子 氏

兵庫県は全国から、いい意味で注目されている社会福祉士会の一つだと思っています。しかしながら本日の総会でもご審議をいただきましたように、会としての質をさらに精査し、高めていくという必要に迫られていることも事実です。

今回こんな活発な総会になるということが、本当に素晴らしいことだなと思っています。2000名近くの会員数となると、なかなか顔が見えるという関係は築きにくい状況にあります。とはいえ、会員がより参加しやすく、専門職専門職の団体として社会に貢献できる役割も担っていかなければなりません。今社会情勢はますます複雑化しています。私たち社会福祉士は、1人1人が尊重された立場で、安心して意見が言える会であること、それを社会にも提言できる、また、社会に貢献できることを目指した会になるよう、監事としての役割を果たしていきたいと考えております。